

# いきもの広場

## ① イラガのまゆ



幼虫は毒のトゲをもちますが、まゆや成虫に毒はありません。まゆは幼虫が粘液を出して固め、自分で作ったものです。

## ② ハラビロカマキリの卵のう



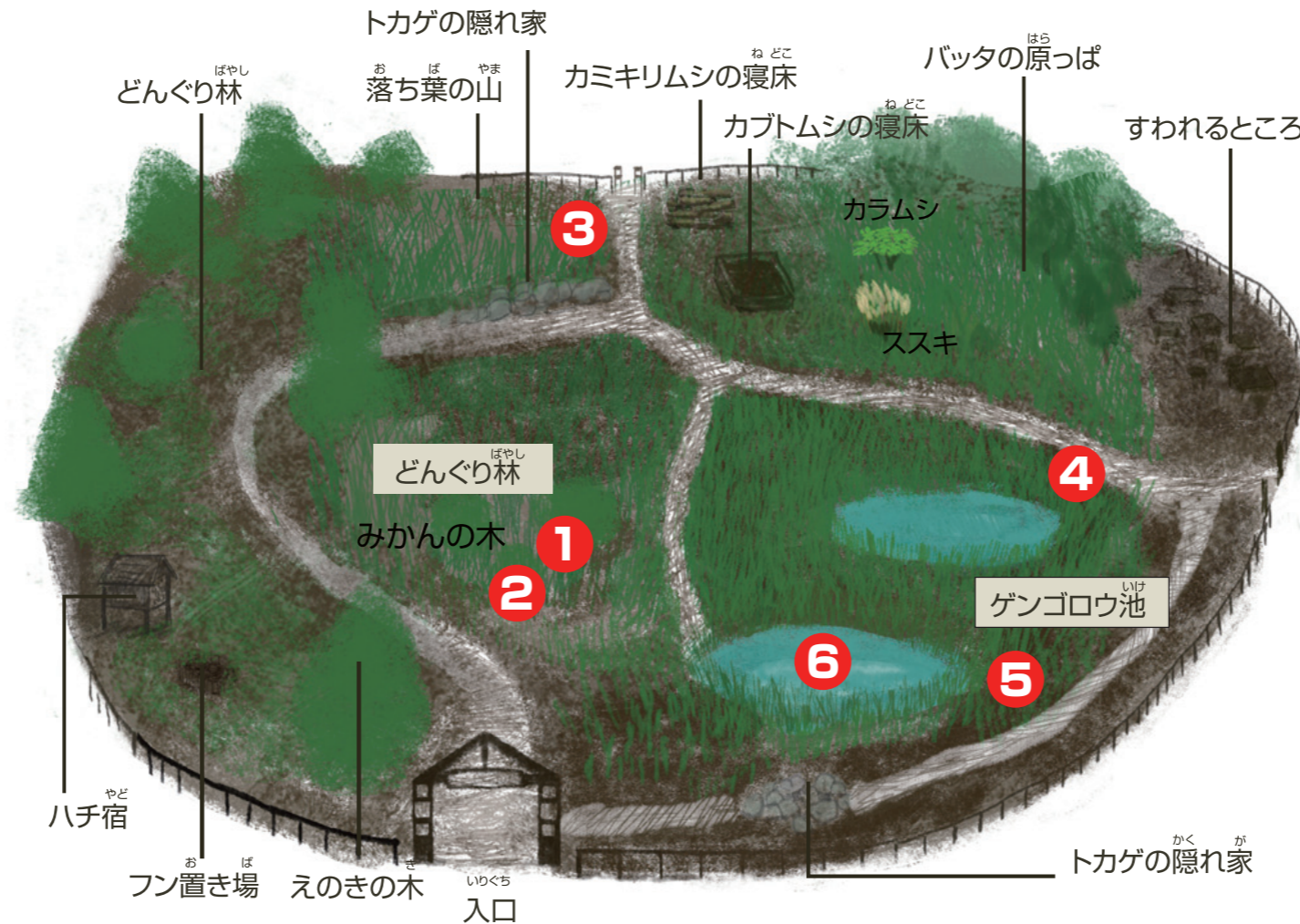
ツノのような突起があるのが特徴です。卵のうの形はカマキリの種類により違います。

## ③ カブトムシの幼虫



幼虫は夏の終わり～秋にかけて腐葉土を食べ、子供の手のひらほどの大きさの「3齢幼虫」に成長し、冬を越します。

いきもの広場は、動物園の中に作った「近所の自然」です。広場のなかには様々な環境や生き物と出会うための小さな仕掛けがたくさんあります。寒さがゆるむ3月、いきものたちは春の訪れを感じて、活動始める準備をしています。



## ⑥ アズマヒキガエルの卵塊



長いひも状の卵塊の形で産卵します。まもなく孵化してオタマジャクシになります。

## ⑤ クヌギカメムシの卵



コナラの看板の裏で見つけました。冬を卵の姿で越します。ふ化した幼虫は、卵をおおっていたゼリー状の物質を食べて育ちます。

## ④ ジャノメチョウの幼虫



幼虫の姿で冬を過ごします。食草であるススキの根もとに隠れていました。

## 網を張りました

広場の中の池に、網を張りました。これは、カルガモがやってきて、池の中にいるオタマジャクシを食べてしまうのを防ぐためです。

